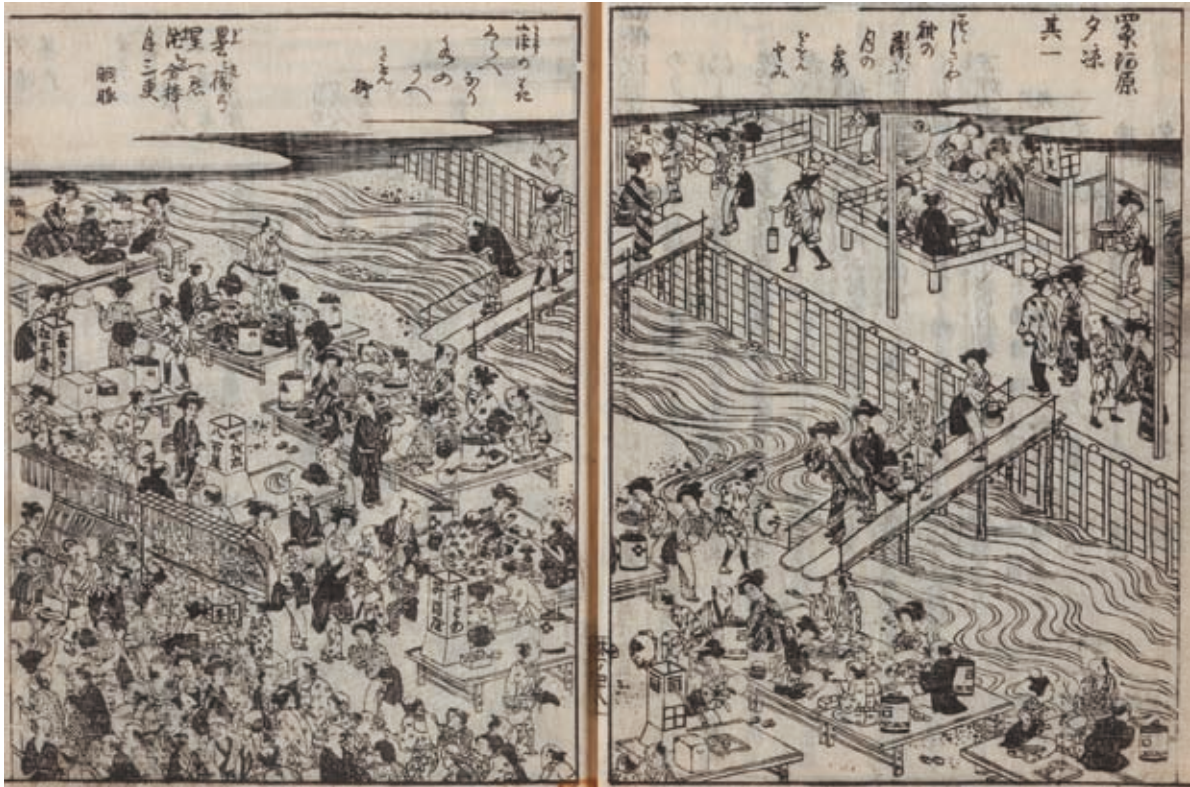




総合資料館だより

2012. 7. 1 No. 172

「四条河原夕涼」



都林泉名勝図会 巻1 (四条河原夕涼 其一)

京都の夏はむし暑いことで有名です。江戸時代には夏の暑さをしのぐため、四条河原と下鴨糺河原で夕涼みが催されました。なかでも四条河原は、祇園祭の御輿が御旅所に移されている間の旧暦6月7日から18日が夕涼みの期間でした。

当時の鴨川は、四条付近に大きな中洲があり、鴨川西岸から架けられた橋を渡って中洲へ行くことができました。川岸の料理屋から出た床よりも、中洲に出た床や夜店が賑わっていたようで、宴を楽しむ人や露店をまわりながら夕涼みをする人の姿がみられます。

京都の夏の風物詩として継承されている鴨川納涼床は、現在は二条大橋から五条大橋までの鴨川西岸の旅館や料亭で、5月1日から9月30日まで開業しています。床は今も昔も、むしかえすような暑さの京都の夏にひとときの涼を届けます。

この資料は、京都府立総合資料館ホームページの「京の記憶ライブラリ」でご覧いただけます。

(アドレス<http://kyoto-shiryokan.jp/kyoto-memory/detail.php?id=E110602&page=12>)

目次	「四条河原夕涼」	1
	文献課の窓から「京都の震災と防災」	2
	歴史資料課の窓から「行政文書にみる京都 明治年間初期の祇園祭」	4
	最近の収集資料から (平成24年3月～5月)	5
	『京都学へのいざない講座－京都力を探る－』のご案内	7
	「総合資料館収蔵品展」のお知らせ、友の会事務局から 利用案内	8

京都の震災と防災

平成23年3月11日に発生して未曾有の津波被害の爪痕を残した東日本大震災から1年余を経過しました。

京都府内を震源とする大地震としては、昭和2年に網野町を震源地とするマグニチュード7.3の直下型地震・北丹後地震が丹後地方を襲いました。死者（行方不明者）2,894名、負傷者7,595名、全壊・半壊住宅が1万戸を超える甚大な被害となりました。当時の被害状況や救援活動の様子は『奥丹後震災誌』等の資料から伺い知ることができます。

京都周辺で起こった大地震としては、平成7年の阪神・淡路大震災が記憶に新しいところです。京都でも震度5を記録し、死者1名、負傷者47名、11,000棟を超える住宅が被害を受けました。この大震災は災害対策の転換点となり、その後、災害対策基本法が改正されて、行政は各般にわたる新たな災害対策の総合的推進を迫られ

る事になりました。

今後日本で起こる可能性のある大地震の予想が報道され、そのうち南海トラフで発生した場合には京都も大きな震度にみまわれると予想されています。

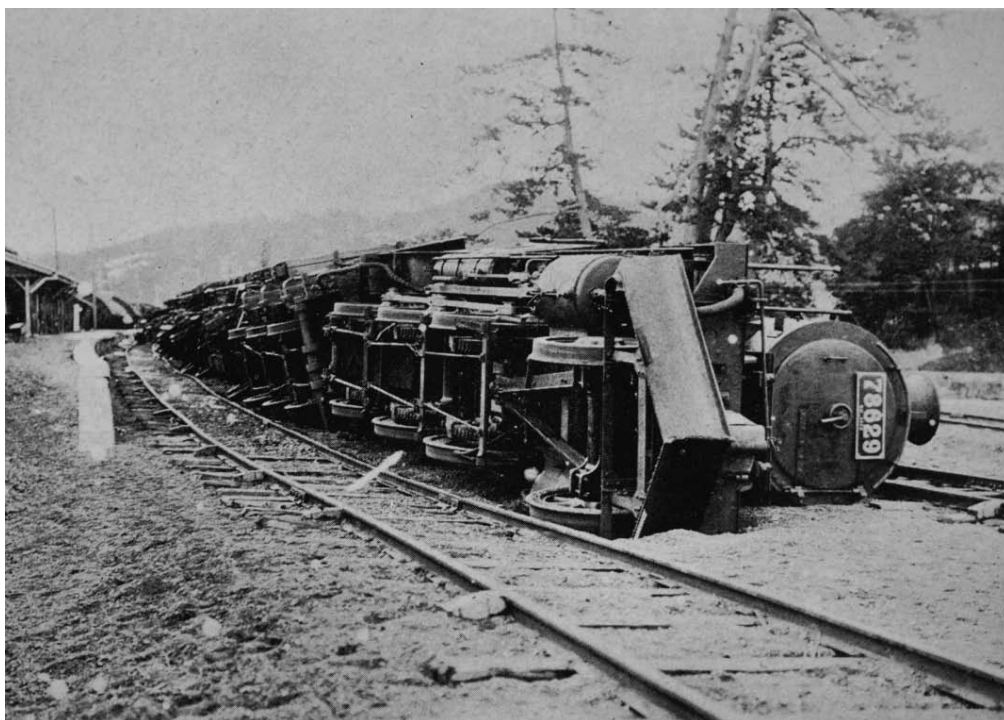
国や各自治体でも備えや啓発など様々な防災への取組がなされています。

内閣府が毎年発行する『防災白書』では、防災対策に関する現状と課題や、近年に発生した災害の状況と対策についての政府の報告がとりまとめられています。

京都府や府内の各市町村では、災害時に備えて地域防災計画を策定しています。地域防災計画は、府では国の防災基本計画や各省庁、公共機関の防災業務計画と整合が図られるように、市町村では府の防災計画に整合が図られるように策定されており、毎年見直しが行われています。

『京都府地域防災計画』は、一般計画編（風水害等）、震災対策計画編、原子力発電所防災計画編、事故対策計画編の4編から構成されています。原子力発電所防災計画編については、福島第一原子力発電所事故を踏まえ、より大規模な災害を想定した『原子力発電所防災対策暫定計画（高浜及び大飯発電所編）』が策定されています。

原子力関係では、京都府は『原子力防災のしおり』を作成し、原子力災害時の対応等についての周知に努めているほか、『原子力発電所防災対策暫定計画』に基づいて放射線量を観測するためのモニタリングポストを増設し、その結果を『高浜原



▲網野駅における列車の転覆（『奥丹後震災誌』より）



▲北丹後地震後の峰山町の全景（『丹後大震火災』より）

子力発電所環境放射線監視結果 分冊』として報告しています。

この他、各自治体や学区、自治会などで作成された防災マップや、府内の活断層について書かれた冊子『京都府の地震と活断層』『京都の活断層』等も所蔵しています。

震災後、今回紹介したような震災・防災関係の資料や、地盤や住んでいる土地の歴史を調べるために古い地図を見に来られる方が増えています。過去の震災について学び、最新の情報を収集して、いざという時の備えにしてください。

化環境部環境管理課編刊 2011 (MK0/543.5/Ky6)

- ・『京都府の地震と活断層 京都府[編]刊 [2004] (MK0/453.4/Ky6)
- ・『京都の活断層』京都市消防局防災対策室[編]刊 2001 (MK1/454.4/Ky6)
- ・『丹後大震火災』大阪朝日新聞社編刊 1927 (K4/453.216/O73)

【参考文献】

- ・『奥丹後震災誌』 京都府学務部社会課編京都府 1928 (MK4/453.216/Ky6)
- ・『防災白書』 内閣府編 佐伯印刷 (M/369.3/N28)
- ・府内各自治体の地域防災計画は「国立国会図書館レファレンス協同データベース」に当館がまとめたリンク集が掲載されております。
(<http://crd.ndl.go.jp/GENERAL/servlet/detail.manual?id=2000016399>)
- ・『原子力発電所防災対策暫定計画（高浜及び大飯発電所編）』 京都府防災会議[編]刊 2011 (MK0/369.3/Ky6)
- ・『原子力防災のしおり』 京都府府民生活部危機管理・防災課編刊 2012 (MK0/369.3/Ky6)
- ・『高浜原子力発電所環境放射線監視結果』（平成23年度第1四半期より、分冊付） 京都府文



▲集められた義援物資（『丹後大震火災』より）

行政文書にみる京都 明治年間初期の祇園祭

毎年7月に催される京都の祇園祭は、日本を代表する祭礼としてユネスコ無形文化遺産に登録されています。この祭は、京都市東山区にある八坂神社とその氏子の行事で、平安時代以来1000年以上の歴史をもつ祭礼です。長い年月の間にいろいろと変わってきましたが、とりわけ明治年間初期に大きな変化がありました。その移り変わりを、京都府行政文書の中から探ってみましょう。

慶応4（1868）年5月晦日、それまで祇園社感神院と呼ばれていた称号が、八坂郷にあることから八坂神社に改められました（京都府行政文書 明1-1）。これは祇園社の呼び名が仏教説話に出てくる祇園精舎に基づくものであり、維新の新政府が依拠した神道思想に反するものであったからです。

称号の変更にともない、祭りの名前も仏教の法会に基づく祇園会から、八坂祭へと変わりました。称号とともに祭神の名前も改められ、ゴズテンノウ（牛頭天王）がササノヲノミコト（素戔嗚尊）、ハリサイニョ（頗梨采女）がクシイナダヒメノミコト（櫛稲田姫命）、ハチオウジ（八王子）がヤハシラノミコガミ（八柱御子神）と呼ばれるようになりました。

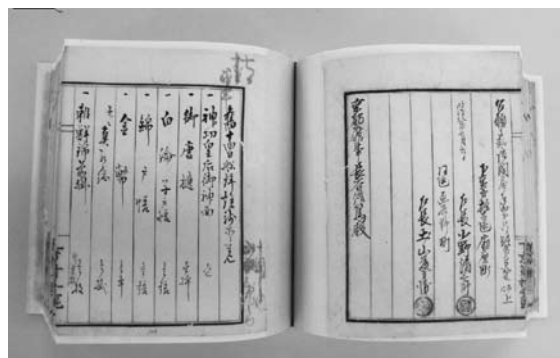
新政府は西洋への開国による近代化を進める一環で、各種制度の改革を実施します。時間を数える暦の制度も、明治5年12月3日（明治6<1873>年1月1日）を境に、月の運行を基とする太陰太陽暦から西洋で使われていた太陽暦へと切り替えます。その結果、祭日にも影響が及びました。江戸時代まで6月7日と14日に営まれていた祇園会は、当初は1か月遅れで行われました（明8-26-2）。明治10年には、その年の太陰太陽暦6月7日と14日が太陽暦の7月17日と24日に相当することからその日に実施します。これは直前の7月5日に京都府により決定されました（明8-32）。その後、梅雨期の降雨を避けるために変

更された年もありましたが、明治21年から7月17日と24日に固定され、現在に至っています（『近世祇園祭山鉾巡行史』）。

元治元（1864）年7月の禁門の変にともなう市中大火により、祇園会の山鉾を出す下京の町々は焼け尽くされました。それにより山鉾を失い、祭りに参加できない町内が生じました。その後、徐々に復活を遂げていきますが、その時期に山鉾の銚具を調べた記録が「八坂神事山鉾銚具取調」（明9-34）として残ります。その内容は、明治8年5月に各町内から山鉾銚具について書き上げたもので、山鉾ごとに銚具の名称、材質、員数等を記しています。そして、32町の連名で売却賃入れ等をしないことを京都府に誓っています。それを受けて、7月には山鉾飾りの検分もなされました。例えば、禁門の変により焼失して再興できなかった大船鉾では、「旧十四日船鉾焼残品々覚」として、神功皇后御神面以下の品々が書き上げられています。

山鉾の巡行の順番は、室町時代の途中から籤により決めていました。その場所は、下京の中心に位置する六角堂でした。維新の変革により、この場所も変更を余儀なくされます。明治11年には、鉾町総代・山町総代の連名で京都府知事に対して「来ル十五日罷出頂戴仕度候」とする願書が出されていて（明10-12-1）、京都府庁において籤取が行われていました。明治31年秋に市役所が開庁してからは、その場所は京都市役所に移り、今日に至っています。

（歴史資料課：行政文書担当 大塚活美）



▲「八坂神事山鉾銚具取調」



最近の収集資料から（平成24年3月～5月）



◆図書資料

〈京都〉

福知山市文化協会創立65周年記念誌 2011 福知山市文化協会[編]刊 2011 112p 寄贈

池田屋事件の研究 中村武生著 講談社 2011 414p (講談社現代新書 2131)

京郊圏の中世社会 藤木久志編 高志書院 2011 372p 寄贈

あなたの知らない京都の歴史 常識のいつわり 横山卓雄著 京都自然史研究所 三学出版(発売) 2011 7,94p

福知山史談會創立六十周年記念誌 六十周年記念誌委員会編集 福知山史談會 2011 165p 寄贈

秋休み家族でエンジョイガイド 2011autumn 京都市・観光庁[編]刊 [2011] 30p 寄贈

京都の町家と火消衆 その働き、鬼神のごとし 丸山俊明著 昭和堂 2011 16,481p

京都嵯峨芸術大学の歩み 大覚寺学園創立40周年記念 京都嵯峨芸術大学創立40周年記念誌編纂室編 大覚寺学園 2011 105p 寄贈

おすすめ花暦 「きまぐれ園だより」&「園長のおすすめ花暦」 京都府立植物園監修・編集・刊 2012 189p

伏見稲荷大社楼門・廻廊並びに外拝殿修理工事報告書 伏見稲荷大社[編]刊 2011 99,113p 寄贈

車石 江戸時代の街道整備 企画展 大津市歴史博物館編刊 2012 80p

国宝蟹満寺釈迦如来坐像 古代大型金銅仏を読み解く 三船温尚・奥健夫編 蟹満寺釈迦如来坐像調査委員会著 八木書店 2011 6,236p

敷島の歌のころ その歴史と文学吟詠舞劇 「鶴の恩返し」他 廣青隴脚本・著 京都市詩吟文化連盟 2011 116p 寄贈

平曲譜本による近世京都アクセントの史的 연구 上野和昭著 早稲田大学出版部 (早稲田大学学術叢書15) 2011 14,549p

〈人文〉

読売年鑑 2012年版,別冊(分野別人名録) 読売新聞東京本社 2012 2冊

BOOK PAGE 本の年鑑 2012-1,2 日外アソシエーツ編刊 紀伊國屋書店(発売) 2012 2冊

ブリタニカ国際年鑑 2012 ブリタニカ・ジャパン 2012 660p

はじめての漢籍 東京大学東洋文化研究所図書室編 汲古書院 2011 5,202,3p

図書館サービスの可能性 利用に障害のある人々へのサービスその動向と分析 小林卓・野口武悟編 日外アソシエーツ 紀伊國屋書店(発売) 2012 8,217p

東京堂類語辞典 広田栄太郎・鈴木棠三編 東京堂出版 2011 4,743p 「類語辞典」(昭和30年刊)の改題新装版

東日本大震災に学ぶ 日本図書館協会編刊 2012 103p (図書館建築研修会 第33回)

和辻哲郎仏教哲学読本 全2巻 和辻哲郎著 書肆心水 2011

修験道の室町文化 川崎剛志編 岩田書院 2011 250p

親鸞聖人七百五十回御遠忌記念論集 全2巻 大谷大学真宗総合研究所編 筑摩書房 2011 内容:上 『教行信証』の思想 下 親鸞像の再構築 寄贈

岩宿時代 岩宿博物館常設展示解説図録 岩宿博物館編刊 2011 89p 寄贈

日本古代の武器・武具と軍事 津野仁著 吉川弘文館 2011 10,289p

中世長崎の基礎的研究 外山幹夫著 思文閣出版 2011 14,386,17p

江戸時代来日外国人人名辞典 岩下哲典編 東京堂出版 2011 6,383p

華族畫報 上 下 杉謙二編 吉川弘文館 2011 華族畫報社大正2年刊復刻

千石船の湊を訪ねて 江戸期の日本海運活躍の跡 谷弘著 芸立出版 2011 661p

肖像画の時代 中世形成期における絵画の思想的深層 伊藤大輔著 名古屋大学出版会 2011 22,412,12p

村山槐多の全貌 天才詩人画家22年の生涯！ 村山槐多[画] 岡崎市 2011 324p 寄贈

フェルメールからのラブレター展 フェルメール[画] 千足伸行監修 朝日放送 [2011] 205p 寄贈

ジャクソン・ポロック展 生誕100年 ジャクソン・ポロック[画] 愛知県美術館編集 読売新聞東京本社 2011-2012 219p 寄贈

近代ニッポン「しおり」大図鑑 山田俊幸監修 羽島知之編 国書刊行会 2011 199p

Myanmar ワラブキ屋根ノ小サナ村 芦原正義著 アクト 2012 寄贈

たばこ入れ 増補改訂版 たばこと塩の博物館編刊 2005 359p 寄贈

光琳蒔絵の研究 内田篤呉著 中央公論美術出版 2011 381p 図版10p

和のおもちゃ絵・川崎巨泉 明治の浮世絵師とナニワ趣味人の世界 森田俊雄著 社会評論社 2010 220p

〈官庁〉

学校基本調査報告書 初等中等教育機関 専修学校・各種学校編、高等教育編 平成23年度 生涯学習政策局調査企画課[編] 日経印刷 [全国官報販売協同組合(発売)] 2012 2冊

国民生活基礎調査 平成22年第1～4巻 厚生労働省大臣官房統計情報部編 厚生労働統計協会 2012 4冊

全国消費実態調査 平成21年第1～9巻 総務省統計局編刊 2011-2012 9冊 寄贈

木材需給報告書 平成21年 農林水産省大臣官房統計部編刊 2012 224p 寄贈

特定サービス産業実態調査報告書 経済産業省大臣官房調査統計グループ編 経済産業統計協会 2012 17冊

行啓誌 第26回国民文化祭・京都2011 京都府[編]刊 2012 48p

「**新京都府人権教育・啓発推進計画**」に関する**府民調査報告書** 京都府府民生活部人権啓発推進室編刊 2012 183p

京都府議会活動記録 '07-'11京都府議会事務局編刊 2012 197p

写真で見る京都市水道100年のあゆみ これまでも、そして、これからも 京都市上下水道局総務部総務課編 京都市上下水道局 2012 32p

京都府紀伊郡堀内村現勢一覽 大正15年昭和元年 堀内村役場[編]刊 [1928] 1枚 寄贈

消防年報 平成22年版 相楽中部消防組合消防本部[編]刊 2012 56p 寄贈

宮津湾付近小型船安全情報図 第八管区海上保安本部[編]刊 2011 1枚 寄贈

第2次京丹後市地域福祉計画 ささえ愛たすけ 愛ふれ愛のまち京丹後 京丹後市健康長寿福祉部生活福祉課[編]刊 2012 66p 寄贈

◆文書資料（新しく公開する資料）

堀内村吉川家文書 堀内村（現京都市伏見区）の旧家吉川家で保管されていた文書。吉川家に関わる証書類・賞状のほか、旧堀内村に関わる村文書が含まれる。元禄12年（1702）の伏見奉行からの年貢割付状から明治5年（1872）の京都府からの皆納目録まで年貢に関する文書19点、明治8年の堀内村地籍調査の下図、明治8～13年の堀内小学校の種痘接種取調書、明治18～22年の墓地管理者から提出された埋葬許可証、明治元年京都府の戸籍編成仕法帳ほか。元禄12年（1699）～昭和24年（1949）。85点。寄贈

堀川久民間中（ろちゅう）諸願伺届 明治維新时期に政府が下級官人を一時的に編成組織した間中に関する資料。この資料は地下官人堀川久民の間中内から京都府などへの諸願届の控等の綴。旧体制から新体制への移行期の地下官人の動向をうかがうことができる。明治6年（1873）。1点。

丹波地域神社御届書控 丹波地域の村々（船井郡・北桑田郡の一部）から京都府知事宛に提出された、土着的な信仰の対象である氏神社等に関する届の綴。境内の彩色絵図が添付されているものもある。明治6年（1873）。6点。

高田氏旧蔵資料 宗林町（京都市中京区油小路三条上ル）の名前の由来に関する資料。元は鳩飼殿町であったこと、寛永年間に町内に住居していた五十嵐宗林にちなんで宗林町となったこと、所司代判物を組町で巡回・保管していたこと、小堀遠州の茶会日記の写を作ったことの経緯等を記したものである。五十嵐家は京都町奉行所の指示を受けて洛中洛外の警固や触の伝達などにあたった四座雑色の家のひとつ。寛政10年（1798）。1点。寄贈

本郷家資料 本郷光治氏の辞令集、光治氏の娘福子氏の婚礼の記念撮影と嫁入り道具の写真ほか。本郷家は江戸時代に大將軍村（現京都市北区）の庄屋を務めるとともに北野社の西京神人であった家。明治23年（1890）～大正6年（1917）。3点。寄贈

『京都学へのいざない講座 —京都力を探る—』のご案内

平成27年度の新資料館開館と、これに伴う国際京都学センターの設立に向けて、今秋から新たに、「京都学へのいざない講座—京都力を探る—」を開催します。

資料館では、同センター開設までの3年間、毎年、本講座を実施し、センターの本格的な活動に向け、「京都を1200年間持続させた<京都力>とは何か」を探っていきたいと考えています。

今年度のテーマは「こころ」です。

今年度「京都学へのいざない講座」の概要（予定）

◎第1回 講演会

講師：国際日本文化研究センター
末木文美士 教授

日時：10月2日（火）午後2時～
場所：京都府立大学 大学会館

◎第2回 講演会

講師：京都府立大学文学部歴史学科
上島 享 准教授

日時：10月23日（火）午後2時～
場所：京都府立大学 大学会館

◎第3回 現地見学会

日時：11月26日（月）午後
場所：下鴨神社

◎第4回 講演会

講師：京都産業大学文化学部国際文化学科
小林一彦 教授

日時：12月21日（金）午後2時～
場所：京都府立大学 大学会館

「総合資料館収蔵品展」のお知らせ

■日時 平成24年7月28日(土)～8月26日(日)
午前9時～午後4時30分(休館日：8月8日(水))

■場所 京都府立総合資料館 2階展示室 【入場無料】

■内容

○紙アラカルト

伝統的な手すき技法を守り続けている黒谷和紙の資料、京からかみの見本紙、中国の切り紙である剪紙の作品、おりがみで大文字送り火の作り方を示した資料等を紹介します。
(展示資料…『紙すき村黒谷』他)

○模写図を楽しむ ―いつ誰がなんのために作ったのか―

資料は、それぞれ自身が、何のために作られ、この時代まで残ってきたかという歴史を持っています。その背景等について推理し紹介します。(展示資料…『妖怪絵巻』他)

○京都府蚕業センター文書(行政文書：新公開資料)

昭和55年から平成11年まで綾部市内に所在した京都府蚕業センターで作成・保管されていた文書等を紹介します。

★関連行事 寺子屋講座「おりがみを折って！学んで！伝統文化」【参加費無料】

日時等 平成24年8月2日(木) 午前10時～12時 総合資料館2階会議室

定員 小学生以上30名(小学生は保護者同伴)【申込み先着順】

申込み はがき、ファクス、Eメール (shiryokan-shomu@pref.kyoto.lg.jp)

友の会事務局から

友の会では、随時入会申込みを受け付けています。多数の方のご入会をお待ちしております。

(年会費2,000円：24年4月～25年3月)

*主な活動(予定)

- ・見学会(年1回秋頃、要参加費)
- ・現地講座(年1回春頃、要参加費)
- ・「総合資料館だより」の配付(年4回)
- ・資料館主催の展覧会の会員向け展示解説
- ・京都文化博物館、池大雅美術館の入館割引
- ・総合資料館府民講座の開催(資料館と共催)

問合せ先：友の会事務局

(当館庶務課内 TEL 075-723-4831)

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)

[7月～9月の休館日]

7月11日(水)、16日(月・祝)

8月8日(水)

9月12日(水)、17日(月・祝)、
22日(土・祝)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、(北8)・北山駅下車
京都バス④⑤、④⑥・前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991) TEL. 075-723-4831 FAX. 075-791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。